

- 1 教育事業名 全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム・オリエンテーション合宿 in とかしき」
- 2 ね ら い 探究学習の手法を取り入れ、宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、“離島”というフィールドを課題対象とした「地域課題の探究方法（実践活動を含む。）」を学習し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けるカリキュラムを実施する。
- 3 期 日 令和4年2月11（金）～2月13日（日） 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの 14名
- 6 参加人数 7名
- 7 参加者内訳 男子4名、女子3名（高校3年生1名、高校2年生6名）
- 8 講 師 大城 肇氏（国立大学法人琉球大学名誉教授・前琉球大学長）
- 9 実施プログラム

2/11 (金)	8:00	8:15	9:30	10:00	11:30	12:00	13:00	14:00	16:30	18:00	19:00	21:00	22:00
	会議室 とまりん2階 集合・受付	ガイダンス	乗船	フェリー とかしき	移動	昼食	講話 「地域づくりの 実践」	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	フリー タイム	夕食	講義・演習① 「地域理解」	入浴	就寝
2/12 (土)	6:00	7:40	9:00	11:00	12:00	13:00	15:30	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	
	起床	朝食	フリー タイム	講義・演習② 「課題解決の 基礎」	フリー タイム	昼食	フィールドワーク② 「地域課題の探究」	講義・演習③ 「地域課題の 探究」	夕食	フリー タイム	発表①	入浴	就寝
2/13 (日)	6:00	7:40	8:45	9:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:30	16:35	17:00	17:35	
	起床・ 清掃	朝食	清掃 チェック	講義・演習④ 「行動計画の 基礎」	フリー タイム	昼食	発表②	実践活動 のための ガイダンス	エン ディング	乗船	まりんライ ナー とかしき	泊港にて 解散	

10 事業の様子



ガイダンス



地域づくりの実践



FW(環境保全コース)



FW(農林水産コース)①



FW(農林水産コース)②



発表①



グループワーク



発表②



修了証授与

11 エピソード (参加者の声、アンケートより)

【参加者(生徒)の声】

- ・自分の短所(発表の仕方など)を改めて確認し、積極性を持ったことで少しは直すことができた。
- ・話し合いの活動を丁寧に順に沿ってできて、理解がよくできた。
- ・こういう事業には初めて参加したけど、とても良い思い出ができた。
- ・「地域を知ることは自分を知ること」と聞いて、自分から知るという気持ちが大事だと思った。
- ・自然との共生について知ることができた。
- ・今まで意識してこなかった環境省について話を聞いて良い経験になった。
- ・自分たちの考えた案を提案し、それに対して意見をもらえたりして、違う考えがあってよい体験になった。
- ・仲間との共同作業で培ったものは今後にも活かされると確信している。

12 担当者所見

(1) 成果

- ・全カリキュラムを通して取り組むことで、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けることができた。
- ・全国高校生体験活動顕彰のトライアルとアワードについて知ることができ、オリエンテーション合宿に望むにあたっての姿勢や視点を身につけ、高校生ならではの発想で取り組むことができた。
- ・前琉球大学長の講話を受け、島嶼地域での取り組みや探究の考え方について知ることができた。
- ・ゆとりある日程を組むことで参加者同士の交流が進んだ。違う地域の同年代の参加者と寝食を共にしながら協働し直接関わることで、お互いの夢を語り合う等、SNS等では得られない刺激が成長に繋がった。
- ・地域との関わりをもつことができた。高校生の発想での提案について興味を持ってもらうことができ、地域おこしのきっかけとなりうる可能性がある。
- ・事業を通して学んだことを持ち帰り、家族や学校の同級生と共有しようとする意志が見られた。また、実践活動に取り組み、地域おこしに貢献したいという意見もあった。

(2) 課題

- ・コロナ禍ではあるが、定員を満たすような広報活動が必要である。
- ・各コースにわかれての活動であるため、担当とファシリテーターの連携を密に行う必要がある。
- ・実践活動を経てアワードへのエントリー期限が11月なので、次年度へのエントリーを行う際のサポートが必要である。
- ・今年度開始した新規事業なので準備に手間を要した。各コースの設定やインタビューを受ける相手側との調整、各カリキュラム内容の充実等、次年度への引き継ぎを行う必要がある。